

2025.10.31

Special Exhibition

CELADON
The Luminous
Jade-Green Ware
from East Asia

2025

4.19土—11.24月^{振替休日}

【休館日】

月曜日、5/7(水)、7/22(木)、9/16(火)、10/14(火)、11/4(火)
※ただし、祝日の5/5(日)、7/21(日)、8/11(日)、9/3(日)、10/13(日)、11/3(日)、
および4/28(日)、8/12(火)は開館

【開館時間】

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【入館料】

一般2,000(1,800)円、高校生・大学生800(700)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい、若手職などお持ちの方(各護者1名を含む)。

大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料

※上記の料金で館内の展示すべてをご覧いただけます

【主催】大阪市立東洋陶磁美術館

【共催】産経新聞社

国宝 桃青磁花瓶(とびやいひはないけ)

元・14世紀 南朝

大阪市立東洋陶磁美術館(住友グループ寄贈/貸出コレクション)

写真：六角和也

特別展

東
ア
ジ
ア
の

青
磁
の
き
ら
め
き

CELADON

大阪市立
東洋陶磁
美術館

THE MUSEUM OF
ORIENTAL CERAMICS,
OSAKA



2025.10.31

大阪市立東洋陶磁美術館

奇跡の再発見！所在不明だった重要文化財《飛青磁花生》が寄贈される
11月2日より特別公開——国宝《飛青磁花生》との夢の共演

大阪市立東洋陶磁美術館は、長らく所在不明であった重要文化財（旧国宝）《飛青磁花生》（中国・元代14世紀）の寄贈を受けました。本作は1935年に「国宝」に指定され、1950年に「重要文化財」となったものの近年は行方が分からず、文化庁の「所在不明になっている国指定文化財（美術工芸品）」※¹に掲載されていた作品です。

このたびの寄贈により、当館所蔵の国宝《飛青磁花生》と並んで初めて公開される歴史的な展示が実現します。公開は、現在開催中の特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」※²会場にて、11月2日（日）から24日（月・振替休日）までの限定公開です。さらに同時に寄贈された《青磁不遊環花生》（元・14世紀）も特別公開いたします。

[公開期間] 2025（令和7）年11月2日（日）～24日（月・振替休日）

[会場] 特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」展示1（特別出品1）・展示11（特別出品2）

※¹ 文化庁「所在不明になっている国指定文化財（美術工芸品）」→ <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/torimodosou/kunishitei/>※² 特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」第1弾プレスリリース（3月19日発表）→ <https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:43a788ad-d629-4ead-a9c2-ee2d93e6d645>

※ 今回の寄贈により当館の指定物件は、国宝2件、重要文化財14件になりました。

◎ 展覧会要項

- [名称] 特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」
[会期] 2025（令和7）年4月19日（土）～11月24日（月・振替休日）
[会場] 大阪市立東洋陶磁美術館
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26（大阪中央公会堂東側）
電話：06-6223-0055 FAX：06-6223-0057
[休館日] 月曜日、11/4（火）
※但し、祝日の11/3（月）は開館
[開館時間] 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
[入館料] 一般2,000(1,800)円、高校生・大学生800(700)円
※（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方（介護者1名を含む）、
大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料
※上記の料金で館内の展示すべてをご覧いただけます。
[主催] 大阪市立東洋陶磁美術館
[共催] 産経新聞社

2025.10.31

◎ 特別出品作品

[特別出品 1]

重要文化財 飛青磁花生（とびせいじはないけ）

元・14世紀／龍泉窯

高25.7cm、径13.8cm、重さ930g

大阪市立東洋陶磁美術館（匿名氏寄贈）

写真：六田知弘



[解説]

日本には、当館の国宝《飛青磁花生》に加え、旧国宝にして現・重要文化財の《飛青磁花生》がもう一点伝わっている。長らく所在不明であったが、このたび当館に寄贈され、本邦初となる国宝と重要文化財の《飛青磁花生》が並ぶ歴史的な夢の共演が実現した。本作は双軒庵・松本松蔵（1870 - 1936）旧蔵品である。国宝《飛青磁花生》と比較すると、高さは1.7センチメートル低く、頸部や胴部もわずかに引き締まった造形を示す。また鉄斑装飾は、国宝が計23箇所であるのに対して、重要文化財は計11箇所と約半数にとどまり、斑点はやや大きい。底部のつくりもほとんど同一であり、両者は元代龍泉窯において同時期に制作されたものと考えられる。

2025.10.31

[特別出品2]

青磁不遊環花生（せいじふゆうかんはないけ）

元・14世紀／龍泉窯

高29.2cm、幅15.5cm、重さ1,775g

大阪市立東洋陶磁美術館（匿名氏寄贈）

写真：六田知弘



[解説]

コの字形の両耳に大きな環（リング）が付くが、釉薬で胴部に固着して動かないため「不遊環」と呼ばれる花生。青銅器に倣った形と文様に、失透性の青緑の釉色が加わり、静謐（せいひつ）な趣を添える。底部のつくりは国宝や重要文化財の《飛青磁花生》と類似する。内田家、田村家旧蔵。

2025.10.31

● 関連プログラム

【記念講演会Ⅱ】

「再発見の重要文化財《飛青磁花生》—飛青磁の歴史とその魅力」

講師：小林仁（当館 学芸課長代理）

[日時]

① 2025年11月16日（日）14:00～15:30（開場：13:30～）

② 2025年11月23日（日・祝）14:00～15:30（開場：13:30～）

※①②の内容は同じです。

[会場] 大阪市立東洋陶磁美術館 地下講堂

[参加費] 500円

[定員] 45名（オンラインチケット購入で先着順）

※当館ホームページのチケット購入画面（<https://ticket.moco.or.jp/>）からお申し込みください。

※なお、参加には別途当日の特別展入館チケットが必要となります。



● 参考資料

【寄贈の経緯】

- ・2025年8月、所蔵者から寄贈の申し出
- ・写真資料により学芸員が所在不明の重要文化財であることを確認、文化庁に報告
- ・9月、作品を受け入れ
文化庁調査官による現物確認を経て正式に所在不明重要文化財であることを確定
- ・10月22日受贈

【重要文化財《飛青磁花生》の来歴】

- ・大阪の実業家である双軒庵・松本松蔵氏（1870–1936）旧蔵品
- ・1933年、大阪美術倶楽部「第1回双軒庵展観（売立）」に出品
- ・その後、古美術商・池戸宗三郎氏を経て大阪の山崎一保氏（1882–1944）が所蔵
- ・京都の個人へ伝わったのち、長らく所在不明に
- ・寄贈作品には1935年の国宝指定書（山崎一保氏宛）が付属

【重要文化財《飛青磁花生》の文化財指定】

- ・1933（昭和8）年7月25日 重要美術品「飛青磁花生」
（「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」（昭和8年4月1日交付・施行（法律第四十三号））
- ・1935（昭和10）年4月30日 国宝「飛青磁花瓶」
（「国宝保存法」1929（昭和4）年3月28日制定）
- ・1950（昭和25）年 重要文化財「飛青磁花瓶」
（「文化財保護法」1950（昭和25）年5月30日制定、8月29日施行）

【広報用画像一覧】特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。
下記、申込フォームよりお申込ください。

【広報用画像申込フォーム】

<https://forms.gle/ohJB55fkKQEi6kN28>

※難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。



■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関する注意」を必ずご確認ください。

【1】 	【2】 	【3】 	【4】 
【5】 	【6】 	【7】 	【8】 
【9】 	【10】 	【11】 	【12】 
【13】 	【14】 NEW 	【15】 NEW 	

第1弾リリース |

<https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:c130f58d-c558-437f-990f-ec996c05315c>

報道に関するお問合せ

特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」広報事務局 <ネネラコ内>

Mail / toyotoji-moco.pr@nenelaco.com Tel / 06-6225-7885 Fax / 06-7635-7587
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

【広報用画像クレジット一覧・申込書】特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」

【画像使用全般に関する注意】

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・作品クレジット・キャプションは、作品名・年代・サイズ・撮影者の順に記載してください。掲載スペースに制限がある場合は、サイズを省略するか、高さのみの表記でも構いません。
- ・画像はすべて全図で使用してください。画像の余白をトリミングしていただくことは可能です。文字や他のイメージを重ねたり、変形させることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、掲載URL、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

■ご希望の画像に☑をお願いいたします

No.	クレジット・キャプション ※キャプションの間は全角アキ
1☐	国宝 飛青磁花生 元・14世紀／龍泉窯 高27.4cm、径14.6cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
2☐	重要文化財 青磁刻花牡丹唐草文瓶 北宋・11－12世紀／耀州窯 高16.8cm、径17.3cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
3☐	（左）重要美術品 青磁彫刻童子形水滴 高麗・12世紀 高11.2cm、幅6.0cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） （右）青磁彫刻童子形水滴 高麗・12世紀 高11.0cm、幅7.3cm 大阪市立東洋陶磁美術館 写真：六田知弘
4☐	青磁陽刻菊花文碗 高麗・12世紀 高4.9cm、口径11.7cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
5☐	青磁瓜形瓶 高麗・12世紀前半 高25.7cm、径10.6cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
6☐	青磁染付青海波宝文皿 江戸・18世紀／鍋島藩窯（伊万里・大川内山窯） 高8.5cm、口径31.5cm 大阪市立美術館（田原コレクション）
7☐	青磁獅子形置物 江戸・18－19世紀／鍋島藩窯（伊万里・大川内山窯） 高21.0cm、幅29.0×16.5cm 個人蔵 写真：六田知弘
8☐	青磁水仙盆 北宋・11世紀末－12世紀初／汝窯 高5.6cm、幅22.0×15.5cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
9☐	青磁管耳瓶 南宋・12－13世紀／龍泉窯 高22.5cm、幅14.2×12.5cm 大阪市立東洋陶磁美術館（鈴木素子氏寄贈） 写真：六田知弘
10☐	国宝 油滴天目茶碗 南宋・12－13世紀／建窯 高7.5cm、口径12.2cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
11☐	青花虎鵠文壺 朝鮮・18世紀後半 高44.1cm、径34.2cm 大阪市立東洋陶磁美術館（住友グループ寄贈／安宅コレクション） 写真：六田知弘
12☐	チラシビジュアル ※クレジットなし
13☐	ポスタービジュアル ※クレジットなし
14☐	重要文化財 飛青磁花生 元・14世紀／龍泉窯 高25.7cm、径13.8cm 大阪市立東洋陶磁美術館 写真：六田知弘
15☐	青磁不遊環花生 元・14世紀／龍泉窯 高29.2cm、幅15.5cm 大阪市立東洋陶磁美術館 写真：六田知弘

貴社名／	
お名前／	
部署／	ご所属／
貴媒体名／	媒体種／
媒体発行・運営社名	
サイトURL／	
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 ☐ WEBへの転載あり
TEL／	FAX／
E-MAIL／	
媒体プレゼント用チケット／ ☐ 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須 ※提供枚数に達した場合、提供を終了いたします ※発送は準備が出来次第いたします お送り先／〒	

報道に関するお問合せ

特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」広報事務局<ネネラコ内>

Mail／ toyotoji-moco.pr@nenelaco.com Tel／ 06-6225-7885 Fax／ 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル